

『最強のゴロ』シリーズ

～Yuichi Okumura～

ワイン概論 3

テキスト 3-1

●今日のレースをまるで徐行（除梗）運転だとデイス（ディステム）られて、心が挟られる（エグラパージュ）思いだった。

または、

いいグレープ（Egrappage）を取り除いて（除梗）いることをデイス（ディステム）られる。

●フラれて（フーラージュ）心が砕け（破碎、⇒クラッシュ）散った。

●夏（30度←発酵温度のこと。夏の気温を連想。）に、甘い（補糖）香りのシャンプー（シャブタリザシオン）を買った。

●マセた（マセラシオン、マセレーション）子供の好物は鴨そば（醸し）。

●レモン（ルモンタージュ）果汁をふりかける（ふりかける※）。

※図が上から液体を振りかけるイメージなので、レモンを絞って料理に振りかけるシーンを連想する。

●ピシャツ（ピシャーージュ）と回答（權棒）して相手を静める（沈める）。

テキスト 3-2

●リンゴ（リンゴ酸）に牛乳（乳酸菌、乳酸）をたくさん（炭酸ガス）かけて、ラクして発酵（マロラクティック発酵）。

●酒を注いで（補酒）くれるなんてういやつ（ウイヤーージュ）じゃ。

●サーティーワン（スーティラーージュ）が、ラッキー（ラッキング）にも割引き（滓引き）の日だった。

●清澄白河（清澄：読み方はセイチョウ）で、終電（ファイナル→ファイニング）逃して妻から怒られる（コラーージュ）。

テキスト 3-3

- ジョージ (ジョージア) が薪をくべ (クヴェヴリ) ながら語った言葉は、「安い壺 (素焼きの壺) を高値で買わせるなんてアンフェア (アンフォラ) だ」。
- ヨーロッパ (ヨーロッパ) の公園で、走る (セシル) ペット (ペトラエア Petraea) に怯えたドラキユラ (ペドンキュラータ) が転ぶ (ケルカス・ロブール) 。
- 北米 (北アメリカ) のホワイト企業 (アメリカン・ホワイト) でアルバイト (ケルカス・アルバ) 。
- あのにつこり (225 ℓ) 笑うバリスタ (バリック) はよくサボるどー (ボルドー) 。
- ピアス (ピエス) が似合う (228 ℓ) ブルドック (ブルゴーニュ) 。

テキスト 3-4

- カルボナーラを混ぜた (カルボニック・マセレーション) まま、数日放置 (数日置く方法) するなんてボーっ (ボージョレ・ヌーヴォー) としすぎだろ。
- ショー (ア・ショー) の稽古に慣れず (70 度)、疲れて発熱 (加熱) 。
- 検査で、仙人 (セニエ) の血を抜き (血抜き) とろーぜ (ロゼの醸造法) 。

テキスト 3-5 (赤ワインは 3-1)

- 赤い (赤ワイン) の竿 (30 度) を、しれっと (白ワイン) 振れ (20 度) 。

テキスト 3-6

- ペリカン (マセラシオン・ペリキュレール) にスキンシップ (スキン・コンタクト) を試みる。
 - 脂肪がたまって (不純物が沈殿) おデブ (デブルバージュ) になりそう。
 - 檻の上 (滓の上) でシュール (シュール・リー) な手編みの (アミノ酸) 帽子を被る。
- ※バトナージュはバトンから連想する。
- 凍った (凍結) 栗を (クリオ・エキストラクション)、甘く (甘口ワイン) 煮る。

本資料の無断での転載・転送・転用・二次利用はお控えください。

【ロゼワインの醸造法】

●仙人（セニエ）が財布を抜き取られて（抜き取り）発狂（発酵）している。

●プレッシャー（プレシュラージュ）で逆のこと※をしてしまう。

※黒ブドウで白ワインのフロー←逆のことをやったと連想。

●根性試し（混醸法）で相撲仲間に交じって（黒ブドウと白ブドウを混ぜて）、はっけよい（発酵）のこった。

●根性論（混醸法）でドイツ製（ドイツ）のロードバイク（ロードリング）をひらすら漕ぐ。

○ブレンド法は、意味はそのまま。

テキスト 3-7

【スパークリングワインの製法】

●伝統的（トラディショナル方式）な地下鉄（地下鉄→メトロ→メトド・クラシコ）にフランケン（フランシエンゲールング）とカバ（カバ）が乗る。

●大きな（大型タンク）だるま（シャルマ方式）を安く（低コスト）売っている店が閉店（キュヴェ・クローズ）。

●美容外科を切り替えたら（トランスファー方式）、おでこ（デゴルジュマン）のたるみ（ルミューージュ）が簡単（簡略化）に治った。

●田舎（田舎方式）に帰って引き続き（発酵を瓶内で継続）眠って安静（アンセストラル）にするから、毛布（ブランケット・メトード・アンセストラル）をくれー（クレレット・ド・ディー）。

テキスト 3-8

あの天然（天然コルク）のポルトガル人（ポルトガル）は、話がよくスベる（カルカス・スベール）。